

講義名	オ)コミュニケーション論			
担当教員	佐藤 彰宣			
開講期・曜日・時限	前期 火曜日 5時限	授業形態	講義	
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考

主題と概要

近年、社会の様々な場面で「コミュニケーション」の重要性が強調されている。だが、そもそも「コミュニケーション」とは何を意味するのだろうか。本講義では、多義的な意味が包含されている「コミュニケーション」について、主として社会学の視点から検討する。具体的には、現代社会のなかでコミュニケーションのあり方がいかに成立しているのかについて、対面状況からインターネットにおける交流までを対象に、相互作用論や記号論など社会学の諸理論を織り交ぜながら考察する。

到達目標

- ・近現代社会におけるコミュニケーションの意味や仕組みを説明することができる。
- ・コミュニケーションにまつわる社会・文化現象を社会学の視点から分析することができる。

提出課題

授業内で随時レポートを課す。また学生の主体的な取り組みとして自学自習を常に受け付ける。自学自習の提出は任意であるが、内容と提出回数に応じて評価に加点する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

授業内で適宜コメント・応答し、授業内容に反映する。

評価の基準

レポートでは、授業内容についての基礎的な内容理解が達成されているか、授業から理解した視点や概念を用いて、自らコミュニケーションにまつわる諸現象について考察できているかについて問う。

履修にあたっての注意・助言他

日常生活のなかでもコミュニケーションの意味を改めて振り返って考えることや、コミュニケーションに関する情報や知識を積極的に集めておくことで、授業内容についての理解もより深まることが期待される。

教科書					

プリント資料及び参考文献

適宜レジュメを配布する。参考文献は各自のなかで別途案内する。

授業計画

1. 授業の導入：「コミュニケーション」とはなぜ「コミュニケーション」に注目が集まる？
2. コミュニケーションを問うてきた近代の社会（学）：社会（学）にとっての「古くて新しい問題」
3. コミュニケーションを問うてきた近代の社会（学）：近代の成立と人間関係の変化、「再帰性」
4. 近代社会のコミュニケーション：伝線指向型 内部指向型 他人指向型 その先の社会は？
5. 消費社会のコミュニケーション：言語論的批判と符号の意味、「わたらしさ」を求めざる差異への欲求
6. 対面状況とコミュニケーション：相互作用論における自己と他者
7. 対面状況とコミュニケーション：役割演技、儀礼的無関心のふるまい
8. 対面状況とコミュニケーション：ステイグマ、社会隔離
9. 見知らぬ他者との「つながり」：趣味を通じたコミュニケーション、ファンカルチャーと趣味線、社会関係資本
10. 見知らぬ他者との「つながり」：メディアを通じた擬似的な「つながり」（雑誌から掲示板・ブログ、SNSまで）
11. メディア研究（史）からみたコミュニケーション：場所感の喪失、「ことばはもういない」
12. メディア研究（史）からみたコミュニケーション：ステレオタイプと疑似環境、オビニオンリーダーの影響
13. メディア研究（史）からみたコミュニケーション：沈黙の権威、親密性の専制
14. コミュニケーション論の使い方：都市文化における「あひとりさま」のふるまい
15. 授業の総括：コミュニケーションを読み解く視点としての社会学

授業形態（アクティブ・ラーニング）

○ ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

コミュニケーション論についての体系的な知識を身につけるためには、講義内容についての予習・復習（レジュメおよび参考書に目を通す）を行ってほしい（週に4時間以上）。また学生の主体的な取り組みとして自学自習を常に受け付ける。講義内容に関する新聞・雑誌記事についてのレポート、関連書籍の書評など自習の成果の提出を受け付け、評価に加点する。様式は自由であるが、必ず出典を明記すること。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本科目では、現代社会のコミュニケーションにまつわる諸現象を社会学の視点から考える。こうした視点を育てることは、卒業認定・学位授与の方針として示されている「流通科学大学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力」のなかでも、特に「情報収集力」「情報分析力」「課題発見力」などを養うことにつながる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

レポート課題の提出などは、ポータルサイト「Ryuka Portal」を通して行う。オンライン授業についての参加方法についても、Ryuka Portalで案内する。また授業内では情報社会の動向をより分かりやすくイメージしてもらうために、レジュメだけでなく映像資料も積極的に使用する。情報技術と社会がどのような関係にあるのかを意識しながら、映像資料（情報社会に関するドキュメンタリーや映画など）を視聴することで、講義内容への理解がより深まることが期待される。

実務経験の有無及び活用

備考